

まちづくりの方向 (将来の土地利用) (第2章 第4節)

各駅を中心とした生活圏域の形成

私たちは、今まで長い年月をかけて日ごろの生活圏の中心である市内7つの駅及び東大和市駅、萩山駅の周辺について、商業・業務機能の強化、文化機能の整備、公共交通機能の整備を進めてきました。今後も、これらを継続して利便性を向上させ、だれもが同じように快適に過ごすことができるように、今まで以上にまちの魅力を増すことをめざします。

良好な住環境の維持

良好な住宅環境を維持するためには、ゆとりある敷地として適度な密度を確保し、用途地域の混在や建物の高さの混在をできるだけ避けることなどによって、相互に快適な居住環境の確保をめざします。

緑の保全

私たちに欠かすことのできない大切な緑については、市民・行政がそれぞれの立場で可能な限り残し、維持していくことに努めます。また、生産緑地については、農業と調和した快適な市街地の形成を基本として、可能な限り残していくことを原則とします。なお、東京街道や五日市街道などの沿道の樹林と一体となっている貴重な緑の空間については、グリーンベルトとして位置づけます。

幹線道路沿いの土地利用

幹線道路沿いの土地利用については、主要幹線道路や幹線道路の交通特性を基本としながら背後に隣接する住宅地の環境保護にも配慮し、沿道サービス型の土地利用、又は商業・業務施設の立地を誘導します。

基本構想を実現するために (第4章)

1 市民と行政の新しい役割・関係の構築

未来に向かう将来都市像を実現していくためには、市民と行政の従来の関係にとらわれず、各方面での新しい役割や関係を構築し、明日へ続く3つの新しい活力を高めることが必要です。

すなわち、私たち一人ひとりのちからとしての「地域力」、こだいらの地域の経済や社会システムとしての「民活力」、そして市全体を調整しまとめる「行政力」です。

この3つの「ちから」がバランス良く育つことによって持続可能なまち、そして元気なまちが実現することになります。

「地域力」 私たち一人ひとりの様々な「ちから」

「民活力」 こだいらの地域の経済や社会システムの「ちから」

「行政力」 市全体を調整しまとめる行政の「ちから」

2 計画的・効率的な行財政運営

未来に向かう将来都市像を実現していくためには、今まで以上に計画的で効率的な市政運営が必要です。

今後は、小平市が不断の行財政改革の推進や市職員の政策形成能力の向上を図りながら、「身の丈」に合った小平市らしい行政サービスを計画的に展開します。また、次世代の人々のためにも堅実な財政運営を行い、小平市の財政基盤を強化し健全化を図っていきます。

3 地方分権時代にふさわしい行政スタイルへ

本格的な分権型社会の到来は、自治体と国との関係や役割を明確にしつつありますが、今後は、今以上に国や他の自治体との関係も、さらに地方分権の時代にふさわしいかたちになるはずで

す。小平市も、地方分権の基本的なルールである「自己決定」及び「自己責任」を果たすなかで、地方分権の時代にふさわしい関係を構築しながら、信頼される自治体をめざします。

新しい基本構想(素案)のイメージ

こだいらの将来都市像

躍動をかたちに 進化するまち こだいら



皆様のご意見をお待ちしています

(仮称) こだいら21世紀構想—小平市第三次長期総合計画基本構想(素案)—は、様々なご意見・ご提案をいただきながら、さらに検討をしていきます。素案は図書館、公民館、市政資料コーナー、または小平市ホームページでご覧になれます。

ご意見・ご提案は、2月7日(月)までに問合せ先へお寄せください。

問合せ

企画財政部計画調整 (〒187-8701 小平市役所)  
☎ 042(346)9582 FAX 042(346)9513  
電子メール kzb-keikaku@city.kodaira.lg.jp